さよなら
ふれあい
■シルバーだより■

第17号
1993年8月1日
発行
社団法人
豊中市シルバー人材センター
豊中市北桜塚2丁目2番1号
TEL 856－1777

平成5年度通常総会盛況裡に終る

五月二十七日午後二時から、平成五年度通常総会が、市立市民会館大集会室において開催されました。当日は委任状を含め、六百七十四名の会員が出席。

総会は、議長に正会員の野村貞人氏が選出されて議事に入り、第一号議案から第五号議案まで全員異議なく原案どおり可決承認されました。

なお、今回の総会をもって、酒井理事長が退任され、顧問としてセンター事業に携わっていただくことになりました。

また、全理事の互選により、理事長には副理事長の片山喜之氏、副理事長には理事の三河寛治氏が選任されました。

総会終了後は、旭堂南北氏による講談「西行歌行脚」を楽しみ、大盛会のうちに終了しました。

今後とも、役員、事務局職員一同、センター事業の充実、発展のため努力してまいりますので、会員の皆様のよりいっそうのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

あいさつ

理事長　酒井　千秋

平成五年度の通常総会を開催するにあたりまして、ひとこと、ご挨拶申し上げます。

本日は、林市長様をはじめ、ご来賓各位には、いろいろとご多忙のなか、ご臨席賜りまして、厚くお礼申し上げます。

会員の皆様方には、本日も多くのご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。また、本総会を開催するにあたり、地域班の役員の皆様にはいろいろとお骨折りをいただきまして、重ねて厚くお礼申し上げます。

我が国に、国の補助事業としてシルバー人材センターが誕生しましたのは、昭和五十五年であります。高齢化社会が進展するとともに、拡大・発展してまいりまして、現在、全国に六百四十団体で、会員数は、二十七万人を越えるに至っております。契約金額にいたしますと、優に一千億円を突破するところまで参っております。

当センターにおきましては、三月末現在で会員数が八百七十九人、契約金額も昨年度の当初の目標を上廻りまして、二億七千九百万円ということになりました。

これも、ひとえに会員の皆様方のご努力の賜ものでございますが、加えて、関係諸機関のご指導、並びに、市当局のご高配のお陰でありまして、厚くお礼申し上げる次第であります。

当センターも発足しましてから十二年を経過しており、ますます進展する高齢化社会のなかで、その果たすべき役割は、いよいよ重大になってきております。

また、一方では会員就業の安全確保、未就業会員への対応、屋外作業での就業会員不足等、今後、いろいろ解決すべき点も生じてきております。

こういった問題につきましても中央におきまして、「シルバー人材センターの今後のあり方研究会」で、改善すべき問題点の検討が進められております。

当センターといたしましては、今後とも会員の皆様方といっそうの連携を深めまして、福利厚生面の充実、趣味を生かした同好会の活発な活動、また、独自事業等の開発を積極的に展開し、地域に密着した運営を図っていかなければならないと考えております。

どうか会員の皆様方には、今後ともよろしくご協力をいただきまして、当センターの発展の為に、ご支援をいただきますようお願いいたしまして、簡単ではございますがご挨拶といたします。

祝辞

豊中市長
林　實

豊中市シルバー人材センターの平成五年度通常総会が盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。

平素、会員の皆様方には、市政各般にわたり格別のご支援、ご協力を賜っておりますことに、心から厚くお礼申し上げます。

豊中市シルバー人材センターは、高年齢者の就業と生きがいの場として昭和五十六年に発足され、以来今日まで、順調な発展を遂げてこられました。

特に、会員の方々の積極的な仕事への意欲と、律義と親切さをモットーとした業務内容は、発注者の方々に大変好評であり、これもひとえに酒井理事長さんをはじめ、歴代役員の方々、並びに会員の皆様方のたゆまぬご努力の賜ものと、深く敬意を表する次第であります。

お伺いしたところによりますと、設立当初から十六年の長きにわたり、シルバー人材センターの充実・強化に大変ご尽力を頂いて参りました、酒井理事長さんが、この総会をもって勇退されるとのことであります。

今後は顧問として、引き続きシルバー人材センターの発展に関与して頂けるとお聞きしておりますが、どうか、これからもお身体に十分気をつけて、ご活躍頂きたいと存じます。長い間、本当にありがとうございました。

「人生八十年時代」といわれ、本格的な長寿社会が訪れようとしている今日、高年齢者の方々が、シルバー人材センターを通じ、その豊かな経験と能力を生かして社会参加されますことは、極めて意義深いものと存じます。

豊中市におきましても、本格的な高齢社会を迎えるにあたり、「やさしさ、ゆとりのまちとよなか」の実現を目指しておりますが、今年度は、原田老人福祉センター及び、原田老人デイサービスセンターを四月にオープンさせ、またソフト面でも、高齢者のバス運賃助成事業をはじめ、ホームヘルパーの増員や在宅援護サービスの充実などに努めているところでございます。

今後とも、市民のみなさんが健康で安心して暮らせる、活力と魅力にあふれた「いきいき豊中」のまちづくりになおいっそう努力を致して参りたいと存じますので、どうか皆様方にも引き続き、格段のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、豊中市シルバー人材センターのますますのご発展と会員の皆様方のご健勝・ご多幸を心からお祈り致しまして、お祝いのご挨拶と致します。

理事長就任あいさつ

片山　喜之

前酒井理事長の後を受けまして、理事長にご推挙をいただきました片山でございます。

なにぶん、不慣れで微力ではございますが、役員・会員のご協力をいただきまして、精一杯頑張ってまいりたいと存じますので、よろしくご支援のほどお願いいたします。

ご存じのとおり、当シルバー人材センターは、高齢者の就業と生きがいの場として、昭和五十六年六月三十日に発足いたしまして、以来、当センターも順調な発展を遂げてまいりました。

これもひとえに豊中市シルバー人材センターの前身であります開発協会のときから理事長として、十六年間の長きに亘り、当シルバー人材センターの事業運営に、多大のご貢献を賜りました前酒井理事長のご指導の賜ものでございまして、まず、酒井前理事長に心から敬意と感謝を申し上げるものでございます。

顧みまするに、設立当時は会員数百三十八人、契約金額は二千二百万円余でありましたが、現在では会員数は八百七十九人に、また、契約金額につきましても二億七千九百万円余と、着実にその成果をあげるに至ってまいりました。

本年度は、シルバー人材センターの基本理念であります「自主・自立」「共働・共助」の主旨を十分に発揮するための運営体制の強化と、会員の福利厚生の充実に向け、努力してまいりたいと存じますので、顧問としてのご就任の前酒井理事長様はじめ、会員の皆様方のご協力をよろしくお願いいたしまして、簡単ではございますが、就任の挨拶にかえさせていただきます。

酒井理事長退任あいさつ

この総会をもちまして、私は一身上の都合により、理事長及び理事を退任させていただきたいと存じます。

顧みますと、昭和五十六年に豊中市シルバー人材センターが創設され、理事長に任命されました。ちょうど十二年なりますが、その間、会員の皆様をはじめ、役員のかたがた、そして事務局職員の温かいご支援をいただきまして、お陰さまで大過なく大任を果たすことができました。厚くお礼申し上げます。

私退任後の新しい陣容により、皆様がたには、どうかこの高齢化社会が、ますます進展するなかでのシルバー人材センターの重要性を十分ご認識いただきまして、今後とも、センターと会員の皆様の連携を密にして、高齢化社会のなかでの生きがい、地域社会の活性化にご尽力下さいますようお願い申し上げまして、退任のご挨拶とさせていただきます。

どうも長い間ありがとうございました。

役員紹介

今期通常総会後の新役員は、次のとおりです。会員の皆様の一層のご協力をお願いします。

※の十名の方が総会において承認されました。

※理事長　片山喜之
※副理事長　三河寛治
※顧問　酒井千秋
専務理事　安井五郎
理事　長岡修
理事　山路政市
理事　正源義一
理事　宮崎英三郎
理事　黒岩秀子
理事　小川晋一
理事　織田照子
※理事　林泰野
※理事　藤田恭通
※理事　佐々木信也
※理事　上田善治
理事　福田勝啓
※理事　中原俊彦
※監事　藤井健二
※監事　吉川武二郎

会員のひろば

（順不同）

山なら八合目の人生

十八班 山口 正雄

昔から人生わずか五十年、それぐらいが、人間自然の寿命だと云われてきました。が、現に私自身既に八十一歳を迎えました。（もうええのにと云われるぐらい長生きしています）しかし、体力的にいささか衰えを感じることはあっても、もう一度人生をやり直すぐらいの心の若さで頑張りたいと思っています。

今、日本は高齢化社会、長寿国世界一だと云われていますが、なるほど長寿であることは、喜ばしいことです。けれど、問題は中身であります。世間では、寝たきり老人、痴呆症老人といったまことにお気の毒なお年寄りが大変多いと聞きますが、病の床で寝たままで年をとってゆくなんて、実に味気ない、わびしい限りだと思います。やはり、老後は、健康で充実したゆとりある豊かな生活で、長生きしたいと念願しております。

私は、昭和六十年以来、大阪府が毎年定期的に実施されている〝ある講習会〟にお招きいただいて、今年で九年目を迎えました。昭和六十年といえば、当時の内閣は、中曽根総理でした。それから、竹下、宇野、海部、宮沢…とこの間、歴代の総理は五人も替わっています。今、問題になっている〝ウルグアイラウンド〟米の問題で、アメリカ代表として度々来日されているヒルズ通商長官が、先日テレビでこんな話をされました。「私はこの任務について三年になりますが、この間日本のお役人は七人も替わっています。日本はお役人さんがよく替わりますね。」

笑いながら話されていたのを思い出し、正に入れ替わり立ち代わりの激しい日本の政局に比べ、私は、自分の講習会への参加が、九年も続けてこれたことに大きな喜びと誇りを感じます。もちろん一国の政治と講習会の話では比較にもなりませんが、皆さんとの出会い、人とのつながり、それが大きな心の支えになっていると有難く感謝しております。

八十才といえば、私も世の中お釣りで生きているようなものですが、百歳の長寿を全うしようと思えば、この先二十年あります。山なら八合目。頂上を目指して頑張りたいと思います。

シルバー人材センターと私

十三班 佐々木信也

会員の皆々様、センター事務局の皆々様「こんにちは。」

私事で誠に恐縮でございますが、私とシルバーセンターの関わりをお話しさせていただきます。

昭和六十三年七月、大阪から豊中に移り住み、その年の九月八日に入会させていただきました。以来五年近くになります。

初めての仕事は、十月に三国の鉄工所での大工仕事でした。その後、警備保障会社の面接にパスして、会員の皆様四人と共に（五人組で）府立体育館でのプロレス、ボクシングや大学の学園祭での警備、また、石橋の駐車場での車の整理と警備等々、本当に私の人生に数々の経験の一頁を刻み込ませてもらいました。

それ以来は、本職の大工仕事を通じて、地域の皆様や豊中全域の皆々様の仕事をさせていただき、幸いにして今日まで、なんとか働かせていただいております。その間、事務局の皆々様には、一方ならぬご指導とご鞭撻をいただきまして、誠にありがとうございます。この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

今後とも健康の続く限り、前向きの気持ちで頑張ってゆきたいと存じます。どうかこれからも宜しくお願い申し上げます。私のうわ言で本当に失礼致しました。

シルバーの仕事一筋明日の糧

お料理は楽しく 賑やかに

四班　徳永美恵子

シルバー事務局からお料理講習会の案内状が届き、楽しみにしていた日が今日である。どんなお仲間に逢えるかしら?—足は市立働く婦人の家へと急いだ。

テーブルは四人一組である。早速お互いに挨拶も終わり、担当の方と先生から説明を受けた。献立は、鯖の棒鮨・鯛のサラダ・水ようかん。四人の役割も自然に決まった。

鯛の係りになったMさんは、「こんなんよう切らんわ。家から包丁持って来たらよかった。」と言いながら、鯛の身を三ツ切りにして、蒸す用意にかかっていた。

傍では、Tさんがオレンジを櫛形に切っている最中。すでに切られたリンゴが兎になって、ボールの塩水の中に浮かんでいた。

短歌の同好会のH先生は、男性ながらバンダナで鉢巻きりり、愛らしいエプロン姿。馬鈴薯の皮むきがお上手。とても楽しそうに見える。

サラダの下拵えは私の係り。玉ねぎと茹玉子の白身は微塵切りに。黄身は裏ごしして、出来上りのサラダの上の飾りにする。

「胡瓜は蛇腹に切って、離さずに寝かせてから細く切ってね!」先生の声にお互いが頷く。「どうですか。できましたか?」先生は一同に気を配りながら、テーブルを見て歩かれる。

いつの間にか水ようかんは、お皿の上にできていた。周囲のテーブルから突然の声。「わあ綺麗!やっとできたあ。美味しそう。お腹も空いたわあ。」一人一人の笑顔が汗で光り、後片付けの後姿はさすがにプロの頼もしさ。見る間に周囲は見事に片付いていく。

「ちょうど十二時に終わりましたよ。皆さんさすがベテランの方ばかりですね。では、お隣りの部屋で食事にしましょう。」と先生のお言葉。喜びと少し不安だった初めてのお料理講習会。次回はいつかなあと思いながら、家庭のように温かった教室を賑やかに移動した。

淀川長治氏 心の詩(うた)に学ぶ

十班　朝倉　幸子

先日、淀川長治氏の「チャーリー・チャップリンと私」と題する講演会に参加した。

淀川氏は八十四才。明け方四時まで原稿を書き、夕方新幹線で大阪へ入り、会場に着かれたとの事。題名のチャップリンとの交流、人を愛することに徹した彼の生涯を淀川氏の上品なウィットとジョークを随所に配しながらの自在の話し振りに感動し、堪能して充実した気分に浸り、またたく間に帰宅した感じだった。

チャップリンの人を愛する心は、淀川氏の心でもある。異体同心の心と心が相寄る様に、ふとした縁で相見ることができ、淀川氏の歓びは爆発し、二十七才から八十四才の今日まで、チャップリンを愛し続けて来たのである。

人生にはいい事ばかりはない。自分の「愛と希望と勇気と夢」の哲学を貫き通すためには、どんな苦難や迫害にも負けず、「ウェルカム・トラブル」と自分を磨く糧ととらえ、昇華したチャリーの生涯を情熱的に、ハートから湧き溢れる様に氏は語る。

幸せに生きる事は、人を愛し続け、嫌いな人をなくす事であると、また、一流のものを食べる事でもあると力説する。一流のものを食べる—それは、一流の人物、芸術、書籍等に接しながら、追求し自分

を養い高め、実践する事。その充実感、歓びを語りに語る八十四才の耀よう生命は、聴衆に波動させ、共感を巻き起こし、会場に高揚した笑い声を渦巻かせる。まるで、人生への奏鳴曲を聴く様な珠玉の一夕であった。

私達大正末期に生を享けた者は、戦争も体験し、激動の時代を生き貫いて来た。高度成長、バブルの崩壊の真只中に身を置いて、振り廻されていないだろうか。先の見えた人生に、あきらめムードに落ち込み、自己中心的保身主義になっていないだろうか。

チャーリーの「愛と希望と勇気と夢」。どれ一つをとっても、人間が豊かに生きて行くのに必要なものである。時には「ノー。」と言える勇気もなければ、希望も夢もつぶされてしまう場合もある。チャーリーの人間尊重の心の詩を吾が身に確固と取り込み、先の見えた人生だからこそ、今再びの活力を呼び起こし、「生涯青春」の充実の〝今〟を生きて行きたい。桜は桜、梅は梅の精一杯の個性を満開させながらと、また一つ希望の芽吹くよき日でもあった。

〝無人鶏牧場と温泉別荘分譲地〟の巻

十三班 原田 天豊

チャボが数ヶの卵を産んで巣に付いたので、チャボの卵三ヶとキジの卵三ヶを抱かせたところ、キジの卵だけ巣の外に放り出して、自分の卵だけを抱いている。何度入れても出してしまう。他人の卵は抱きたくないのでしょう。

輸入のジャンボ鶏は巣に付きませんので、自家製の鶏を生産出来ないのですが、体が大きいので驚く程の大きな卵を産みます。自家製のヒヨコは、親に見習って飛ぶことを覚えて、高い止まり木に自由に昇りますが、人工ふ化の鶏は、若いうちは飛べませんし、高い止まり木に乗せてやると、ガタガタと震えてポトリと落ちてしまいます。高所恐怖症らしい。しかし、半年もすると慣れてきて、二羽に一羽は止まれるようになりますが、半数は地上で暮らします。中には巣箱の中で寝るのがいて、卵が汚れたりします。

鶏糞が固まらないようにモミガラを入れてありますが、巣箱に入らずモミガラの中に卵を産み、け散らして割り、食べてしまいます。ひどい奴になると、他の鶏が産むのを覗いて待っている。見つけ次第独房に入れております。いじめがひどく、一羽を皆でいじめて、ひどくなると餌も食べさせません。いじめられているものを別けると、すぐ次にいじめができる。暇つぶしとストレス解消にいじめが必要なのです。三年位前に友情の森のオンドリがいじめに合い、尾と背中の毛をむしられてしまい、威厳がなくなりオンドリ失格。裸の鶏の姿を想像してみて下さい。

鶏小屋を三部屋に間仕切りしていましたが、隣の部屋に行きたくてウロウロしているのがいるので、全部解放してみましたところ、四羽のオンドリがけんかしてボスを決め、二番三番四番といつの間にか順位が決まったようです。今でも時々ニラミ合いをしていますが、大げんかにならず、一部屋を自分の縄張りとしてがんばっていますが、一羽だけはみ出すのがかわいそうです。はみ出しは雄の目を盗んで、適当にお気に入りを見つけて交尾しています。六月にヒナが六十羽入るので、その時〝はみだし〟は、ヒナの監督として同居させます。

別荘の土地を買った人から、鶏は鳴くので〝うるさい〟し、それに臭いと苦情を言われておりますので、金網張りの放牧場に屋根をつけました。臭みはだいぶ無くなりましたが、いつまで続けられるか解りません。

すぐ隣に、古い廃車のバスを置いて小屋替わりにしている人がおりますが、朝から夜までエンジンをかけっぱなし(冷暖房)。鶏どころではないですね―。

ネンリンピック山梨大会に参加して

六班　三宅　輝男

ふれあいと活力に満ちた長寿社会を実現するが目的で、六十才以上の男女が競う競技を、「ネンリンピック」と云う。

十月三十日から四日間、第五回健康福祉山梨大会が、小瀬陸上競技場において開催された。常陸宮妃両殿下のご来臨を賜り、山下厚生大臣、山梨県知事をお迎えして盛大に総合開会式が挙行され、観光ツアーの客、他府県からの応援で超満員。上空にはヘリコプターが旋回。五色の花火の合図で、北海道選手を先頭に、各県のチームが歓声に迎えられての入場。小旗の日ノ丸を振って、観覧席は総立ち。大きな拍手が湧き起こる。

イベントとして、風林火山で有名な武田信玄に扮した舘ひろしの騎馬隊約六十騎がグランド狭しと駆け、続く県下の婦人衆。揃いの浴衣姿で二千人からなる舞踊の一団。鳴子を手にトラックを踊り廻り、選手団の中へ踊り込む。和やかな光景も拍手に送られ、バックスタンドへ静かに消えていく。

各県代表一万人の選手が「健やかに、晴やかに、伸びやかに」をスローガンに、秋の実り豊かな甲斐路で、軟式庭球、ソフトボール、サッカー、マラソン、ゲートボール等二十種目の競技に参加。健康福祉文化を通じ、心と心の輪を広げながらの親睦の祭典が繰り広げられた。

夕闇迫る頃、山紫水明の地元、和田村体育館にて歓迎レセプション。各県からの顔馴染みの選手と杯を交えながらの立食パーティー。お互いに健闘を誓う。

明けて翌日は待望のレース。河口湖に連なる西湖の周辺。晴天に恵まれ、グランドではエプロン姿の婦人達が、選手の接待のため早朝から準備。食欲をそそる香りが場内に漂う。

静かな山村に、選手応援の人が続々と大型バスで到着。静寂を破って歓迎の花火がポンポンと打ち上げられ、一気に熱気を帯びてくる。近くには、雪を頂いた富士山が悠然と横たわる。七月末に女房と互いに励まし合いながら登った山。やはり登るより遠方から眺めるのが富士山である。

晩秋の美しい湖畔。紅葉を眺めながら沿道の素朴な村民の応援を受けてのレース。元気が湧いてくる。年令をも省みず完走できたのも、招待者の増田明美選手の好リードによる。後日、財団法人日本長寿社会開発センターより特集号が送付され、良き思い出となった。

試合後、秋田、千葉、大阪、愛媛の四チームが、宿舎のご主人の計らいでお別れパーティー。記念写真を撮り、一路送迎バスで帰路につく。何度も何度も手を振り別れを惜しむ。共通の話題をそしてまた、バッグには多数の土産、参加賞をつめ、四日間の山梨大会も無事終了。高齢者がハンディを背負いながらも夢多く、体力の衰えをも省みず、生き甲斐を感じて遠方から出場、健闘された気力は必ず賞賛されることであろう。

本年は、第六回大会が京都府下で開催される。いずれかの種目に是非会員各位も挑戦していただきたい。

気くばり

一班　河嶋　勝

最近は、その言葉を以前ほど聞かなくなったが、お互いに生活していく中で、最も重要なことだと改めて感じる。

「気くばり」とは、やはり日常的、生活面で自然に身につけさせるべきものではないだろうか。人

から言われてするものではないと思うのである。毎日の生活、仕事の中で自然な心遣いとなり得るものではないだろうか。

最近、特に自分中心に物事を運ぶ風潮が強くなってきているように思われるが…。もっと相手の身になって話をしたり、行動したりすれば良いのにと思うことが、周りを見ても自分自身にも感じられることがある。

なにげなく過ごしている毎日、何か一つ心に留めて生活していれば、ちょっと今までと違った毎日があるように思う。

やはり〝相手の身になって〟ということが、「気くばり」であると思う。自分がして欲しいと思うことは、何よりもまず他人にそうしてあげることだ。

最後に、明るい家庭づくりのひとつに「笑い」がある。笑いのない家庭は、明るい家庭とは言えないのではないかと思う。

笑顔や笑いは家庭を明るくし、堅苦しい雰囲気をほぐすだけでなく、肺の細胞を活気づけ、胃腸を躍動させることで、消化作用を促進する。血液の循環はよくなり、筋肉の神経は活発となって、全身の細胞が活動し始めるという。従って、病気を駆逐し、最高の健康法になるといえる。

皆さん、笑顔を忘れず頑張りましょう！

英語講座に思うこと

四班 江藤 翠

七、八年前からラジオの英語講座を聞いている。初歩の「続基礎英語」などだ。

その頃から、テレビの画面では、外国人が話すのが英語で音声が出、日本語で字幕が出るようになった。それまでは、画面の人が外国語で話していても、我々は、翻訳された日本語だけを聞くばかりだった。今や、テレビの画面から英語を始めとする外国語が流れてくるのは普通になった。

英語講座も年と共に中味が変わってきた。聞き始めた頃は、文法、文の構成が重きをなし、私の聞いている講座などは、講師やアシスタントも、テキストをゆっくりと理解できるように読み、話していた。だんだんに変わってきたが、殊にここ二、三年は、まさに日常英会話になった。話し方も早くて、テキストを見ていなければ、何を言っているのか解らない事が多い。今年など四月の開講からまだ間がないのに、質問に反射的に答える訓練をしている。

時々の「ソング」の時間、また、テキストの巻末の小説、例えば、「足ながおじさん」「オー・ヘンリー短編集」のいくつかなど、毎日の勉強より楽しみである。

私が英会話を聞き始めた頃、学校に行っていた近所の子供さん達はもう立派な社会人になったり、上に進んだりして、次々に私を追い抜いて行く。それでいい。この講座を修了して早く上へ進もうと挑戦したこともあったが、ここをみっちり勉強するので充分と思うようになった。一つの講座からでも、刻々と世の中の変わって行く様子が見えて面白い。

そして、今日も夕方六時二十分から夕飯の仕度を中断して、机に向かってテキストとにらめっこをしている。いつかすらすらと英語で話が出来るようになったら嬉しいなあと夢を抱きながら…。

雑詠「春夏秋冬」

十三班 滝川 正道

若人の活気にまじり初詣
手袋を忘れしタクシー遠ざかる
柳の芽観光艇大きく旋回す
北海道へ明日翔ぶ娘朧月
バラ活けて孫三歳のケーキ切る
青嵐耶馬台国の謎を読む
天主背に燃ゆるかがり火薪能
蜩やドラの音ひびく天保山
赤とんぼ無事空港に着地せり
過ぎて来し喜怒哀楽や吾亦紅
真如堂紅葉の入日急ぎ撮る
辞世の句まだまだ出来ず除夜の鐘

同好会だより

俳句／短歌／囲碁・将棋／ハイキング

俳句

大楠の一鳥翔たす春疾風　　畑中　但雄

クレーン車の荷を上ぐる波止風光る　　本多　兼重

冷やかに早春の眉月見下して　　末広　作蔵

点滴の薬瓶透る春日射し

鴨川のほどけてとろり春うらら　　小原すゑ子

大佛のほほえみに乗る春埃　　戸牧　静子

服部緑地　日本民家集落博物館にて

一二三年重沈丁花その香に惑ひしばし佇ずむ

風花が舞って母の忌又過ぎてゆく

山深く山を忘るる木の目晴傘すぼめ竹の子梅雨のやさしさに　　江藤　翠

咲き満ちて尚清楚なり雪柳ほろ苦き茶にしみわたる惜春や

雲一つゆきどころ無き春の空しののめに推敲重ね春炬燵　　朝倉　幸子

連休の遠出気になる花の水厨房に筍の皮散る日の長き

小刻みに風を捉へて雪柳牡丹のありて坪庭贅沢に　　藤本　哲夫

昨年八月盛夏の折、畑中、本多両会員のご尽力により、短歌・俳句の同好会が誕生致しました。それから早や一年が経過しました。

その間、私達同好会会員は、月一回一座を囲んで句会を開催し、和気藹藹、爆笑も渦巻く中で四季折々の移ろいを肌に感じ、目で確かめて作句の研鑽に努めてまいりました。

お陰さまで、季節に親しむ心を基調に、人生の歩みを重ねて見た時、自然との関わりが如何に人生にふくらみと、安らぎを与えてくれるものかと、しみじみ実感している今日このごろでございます。

さらに、四季を通じて詠んだ作品の数々も、自分史の一頁を飾る懐かしき思い出となることと思っております。

私達同好会会員一同、今後共ますます健康に留意し、一日でも長く、楽しみながら歌作り・句作りを続けたく思っております。

また、末文ではございますが、シルバー会員の皆々様も、お気軽な気持ちでご参加下さる様、心からお待ち申し上げております。

藤本　哲夫

短歌

意地はりて友を離れしわが性の
狭きを想う春雨の宵
なんと無く人恋ふ心夕闇に
ひそとなまめく木蓮の花

本多　兼重

寒肥播き赤きバラの芽数へつつ
春待つわれは老ひ重ねゆく
安曇野は桜の下で早苗取る
白馬は冬を装ひしまま

芝田　健一

汝も又一途に生きる草なれば
許しを乞わん汝を引く吾
安らぎて老いゆく吾を望みしに
耐え難き試練次々に待つ

中山　和久

春うらら写実に歌ふ君在さば
うけし命は詩人の途え

戸牧　靜子

死をつつむ亡父の寝顔の
そは童貞の二十才の顔
うつくしさ

一二三年重

わざわざに風に向ひて
之も孤独のなせる業かも
突きすすむ
さ程にも思わぬうちに
乱の時代か果て又妖か
世は変り

一輪の花も天地の御恵みと
母は教えぬ幼き吾に
雨降れば心にたゆたふ
うなだれて咲く山ぶき黄花
そのままに

小原すゑ子

片栗の五弁の花に幾夜かけ
画がかれぬまま絵筆を洗う
幾十年一筋に生くその人の
姿偲ばるよき書に遇いて

江藤　翠

紫の房長く垂れ去りし家
主変りてなお濃く咲くや
年重ね他者賛ことの幸を知る
嫉の炎の盛なる敗者みて

朝倉　幸子

丘の辺にかげろう揺らぐ
拳突き上げ早蕨生えをり
日の盛り
一室を砦のごとく籠り居て
雨垂れの音に春を惜しみぬ

藤本　哲夫

囲碁・将棋

本多　兼重

囲碁同好会が発足して、一年が経過いたしました。

毎週金曜日午後一時から、例会を開いております。ボケ防止に役立つ囲碁を始めてみませんか。

何もかも忘れて、囲碁に熱中する一刻が、ストレスも解消してくれます。作戦通り進行しない局面は、まるで人生の縮図のようですし、「この一手」で形勢が一変する面白さ。部分に囚われて大勢を見失うなど、処世に通ずる囲碁の世界は、興味深々たるものがあります。

ぼやきながら、暑さも忘れて石を置くのも楽しい一刻です。仕事で身体を動かし、囲碁で頭脳の柔軟体操をして健康の一翼に！

新しい友達の輪も拡がります。ぜひ参加して楽しんで下さい。一同お待ちしています。また、女性の方も、お気軽にどうぞ。初心者の方には、親切にご指導いたします。

大台ヶ原　日出ヶ岳展望台にて
前列左から　松井、高橋、谷口、山路
後列左から　天羽、松原、山田、田中　各会員

ハイキング

大台ヶ原ハイキングツアーに参加して

山路　政市

「近畿の屋根」と称される大台ヶ原ハイキングツアーに参加したのは、五月二十九日であった。

大台ヶ原は、「気象条件の厳しい山である」と聞いており、当日の予報では、午後から次第に雨となり、降水確率は五十％との事だったので不安があった。午前八時に「あべの」から中型バスに乗り、阪神高速―西名阪道で大台ヶ原へ。途中橿原神宮に立ち寄り小休止。ツアーの無事を祈る。

吉野川沿いに清閑な鮎釣りの風景を見る。高橋氏は、以前この川によく鮎釣りに来たらしく、しばらく釣り談義に話が弾む。

また、天羽氏も家族連れで、この河原でお弁当を開いた思い出を楽しそうに語っていた。

いよいよ本格的な登りのコースに入る。しばらく走ると、眼前に展開する大峰連山の山並、新緑の山々。大自然の素晴らしさを満喫。途中二ヶ所ほど道路工事で山を削っていた箇所があり、完全に復旧するまで時間がかかりそうだ。

午前十一時四十五分頃、大台ヶ原駐車場に着く。お天気は予報に反し、晴天の青空が拡がっていた。全員の気持ちが、神に通じたのか、気温も予想以上に上がり、二十度はあるように思われた。「あべの」から三時間四十五分。長時間バスに揺られ、地上に立つと、体がまだ揺れ動いている様に感じる。

大台ヶ原は、台高山系の南端に位置する高原台地で、標高千六百九十五メートルの日出ヶ岳を主峰とする。森林、草原、断崖、湿地が展開する大自然は、まさに大パノラマゾーンである。

下山する時間の都合上、ハイキングコースのうち、東大台コースの日出ヶ岳の展望台に行く事になった。道程は二粁程の回遊路。原生林に囲まれている。いたる所で白く枯れた木立が目につく。野鳥の鳴き声を聞きながらの散策もまた楽しい。

山頂にはコンクリートの展望台と無人観測所があり、シャクナゲが群生して美しい花をつけている。そこからは、熊野灘も眺められ、まさに絶景の一語に尽きる。

機会があればもう一度、時間をかけて自然散策をしてみたい。

府民フェスティバル開催のお知らせ

大阪府下のシルバー人材センターが集う『府民フェスティバル』が、十月十九日（火）、二十日（水）の二日間、「大阪府立体育会館」（大阪市浪速区難波中三―四―三十六）で開催されます。

これには、会員の作品展・経験交流会・カラオケ大会・再生自転車や手芸品の即売会など、楽しい催しが盛り沢山です。

皆さんもぜひお越し下さい。

原稿の募集

本紙は、年二回（八月・一月）の発刊予定です。紀行文・随筆・短歌・俳句・センター事業への意見、感想などお寄せ下さい。八百字以内でお願いします。

会員の皆さんの投稿をお待ちしています。

本紙「編集委員」募集中

自主的に編集をして下さる方を募集しています。事務局までご連絡下さい。

あとがき

一歩外に出れば暑い日射し…夏まっ盛りの候となりましたが、皆様には、お元気でお過ごしのことと存じます。

本号も、会員の皆様からの多彩な原稿のお陰で、無事に編集を終えることができました。これからも、この「ふれあい」が、会員の交流の場・憩いの場として役立つよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

※人物のカットは、豊中市人権文化部文化課の中村徹夫さんにご協力いただきました。

（編集委員一同）